

ニュースクリップ & 映像教材

- 文化庁による「平成20年度日本映画上映支援事業」
「平成20年度国内映画祭支援」2事業への支援
- 平成19年度【第11回】文化庁メディア芸術祭受賞作品展
- 文部科学省委託事業「教員のICT活用指導力向上フォーラム
—すべての教員がICTでわかる授業を—」
- (財)理想教育財団「第4回育て！プリントコミュニケーション」
コンクール作品募集

AV情報

■文化庁による「平成20年度日本映画上映支援事業」「平成20年度国内映画祭支援」2事業への支援

文化庁では、標記2事業に対し、経費の支援を行う。詳細は下記の通り。

「平成20年度日本映画上映支援事業—新たな上映機会の提供」

〈趣旨〉

我が国の映画芸術の水準向上のため、多様な作品鑑賞する機会に恵まれない地域での上映や公開する機会に恵まれない優れた日本映画の上映を支援する。

〈支援対象経費〉

作品借料、上映費、謝金・宣伝費等、入場券販売手数料

〈支援対象となる者〉

映画の上映活動又は製作活動を行うことを主たる目的とする団

体。他要件あり。

「平成20年度国内映画祭支援」

〈趣旨〉

我が国映画の振興に資することを目的とする。

〈支援対象経費〉

作品借料、出演・文芸費、会場・舞台費、謝金・旅費・宣伝費等

〈支援対象となる者〉

対象となる団体等は、映画祭の開催を主たる目的とし、原則として自らが主催する映画祭を実施した実績をもつ我が国の芸術団体等とする。他要件あり。

〈募集期間（2事業ともに）〉

平成20年1月15日（火）～25日（金）

〈問い合わせ先〉

文化庁文化部芸術文化課支援推進室（コンテンツ担当）

TEL03-5253-4111 内2083

時間：午前9時30分より午後6時30分

■平成19年度【第11回】文化庁メディア芸術祭受賞作品展

文化庁メディア芸術祭実行委員会（文化庁、国立新美術館、CG-ART協会）主催による標記芸術祭において、新しい表現方法や優れた芸術的表現などによる創造性あふれるメディア芸術作品を募集し、以下のように各部門の大賞を決定し、併せて受賞作品展を開催する（敬称略）。

○アート部門「nijuman no borei」
Jean-Gabriel PERIOT（仏）

○エンターテインメント部門
「Wii Sports」 「Wii Sports」 開発
チーム代表太田敬三

○アニメーション部門「河童のクゥと夏休み」
原恵一

○マンガ部門「モリのアサガオ」
郷田マモラ

ほか、優秀賞などこちらを参照。

<http://plaza.bunka.go.jp/festival/2007/>

なお、受賞作品展は、世界43

トピックス

第10回小津安二郎記念・
蓼科高原映画祭短編映画祭

「小津安二郎記念・蓼科高原映画祭」実行委員会主催による標記映画祭が、昨年11月2～4日、長野県茅野市で開催された。

本映画祭は、小津安二郎監督とコンビを組んだシナリオライター野田高梧氏の仕事場である「無芸荘」が蓼科の地にあることから、ふたりのゆかりの地として、ここに映画祭が開催されることとなった。

この映画祭の一環としてスタートした短編映画コンクール。募集のジャンルは、ドラマ。応募資格は不問、未発表作品で配

給、販売を目的にした作品でないもの。作品の上映時間は20分以内で、オリジナルフォーマットはフィルム、ビデオ等不問。賞には、グランプリ賞1点30万円、準グランプリ賞10万円、記念品ほか。昨年は、6回目を数え、全国より79作品の応募があった。審査委員長には、山田洋次監督を迎えた。

入賞作品は、以下のとおり。
◇グランプリ作品「お願い。誰か」
◇準グランプリ作品「該当なし」
◇入賞作品「屋上の夢」「春のユウウツ」
◇入選作品「SLAP」「バラ色フリーウェイ」「ひねくれ緑と星のパン」「ヒーロー ～僕にできること～」「僕がキミに出来ること」「みかとせいじゅん」
◇奨励賞「子犬物語」

なお、入賞作品は、<http://>



www.tateshinakougen.gr.jp/cinema/tanpen.htmlから鑑賞することもできる。

今年も本コンクールは、映画祭と併せて開催予定。詳細、お問い合わせは、茅野市役所商業観光課内「小津安二郎記念・蓼科高原映画祭実行委員会事務局」TEL0266-72-2101内423、424。

の国と地域からの応募のあった2,091作品の中から選ばれた約170点の優秀作品を展示・上映。会期会場は以下の通り。

〈会期〉

平成20年2月6日(水)～2月17日(日) ※2月12日(火) 休館

〈会場〉

国立新美術館(港区・六本木)

入場無料

〈問い合わせ先〉

文化庁メディア芸術祭事務局
CG-ARTS協会内

TEL 03-3535-3501

研究会情報

■文部科学省委託事業「教員のICT活用指導力向上フォーラム—すべての教員がICTでわかる授業を—」

(独)メディア教育開発センター、「教員のICT活用指導力とICT操作スキルの向上プロジェクトの推進と評価」委員会主催

による標記フォーラムが下記のとおり行われる。

〈日時〉

平成20年1月31日(木)

14:00～17:00

〈会場〉

東京国際交流館プラザ平成国際交流会議場(東京都江東区青海2-79)

〈内容〉

文部科学省が公表した「教員のICT活用指導力の基準」を踏まえ、ICT活用による効果的な授業実践の事例報告や実践のポイントの整理、教員のICT活用指導力向上のための研修の例示を説明。また、集合研修、校内研修、個人研修、教員養成研修に利用できるICT活用指導力向上研修システムの活用など。

〈タイムスケジュール〉

14:00～14:05 挨拶

中沢淳一氏(文部科学省初等中等教育局情報教育調整官)

14:05～14:45 講演

清水康敬氏((独)メディア教育開発センター理事長)

14:45～15:45 実践報告セッション

「ICTを効果的に活用した実践のポイント」

司会:中川一史氏((独)メディア教育開発センター教授)パネリスト:佐藤幸江氏(横浜市立大口台小学校研修主任)他

15:55～16:55 研修報告セッション

「教員のICT活用指導力を向上させる研修の在り方」

司会:堀田龍也氏((独)メディア教育開発センター准教授)パネリスト:皆川寛氏(宮城県登米市立北方小学校研修主任)他
(申し込み)

参加費は無料だが、こちらより参加の申し込みをする。<http://www.nime.ac.jp/it-gaku/2007/>
(問い合わせ先)

トピックス

NPO法人地球映像ネットワーク 世界自然・野生生物に関するフリーペーパーを配布

「次代を担う子どもたちに、美しい地球を託していきたい」との願いのもとに1992年設立されたNPO法人地球映像ネットワーク (<http://www.naturechannel.jp/aboutNFN.html>) は、地球の貴重な財産ともいえる自然や野生生物を映像という形で収集・保存して、映像を通じて多くの人たちに「地球の今」を伝え、地球環境保護への理解と関心を高めることを、活動の目的としている。

活動のひとつに、世界自然・野生生物映像祭を開催している。1993年に第1回映像祭を富山

県で開催。以降、アジア・オセアニア地区の映像祭として、隔年開催している。

この映像祭に、世界から寄せられた作品は、3,000本を超え、その中から、入賞作品を中心に選りすぐった優秀作品を教育の現場に、貸し出しも行っている。

同ネットワークでは、映像祭の応募作品の中から、また各界の著名な方々の各々のお立場から生命の根源を問いつけるメッセージをいただき、写真とともにお届けする機関紙をフリーペーパーとして発行した。創刊号では、UNEP親善大使の加藤登紀子さんと映画監督の羽仁進先生、動物行動学者の日高敏隆先生にメッセージを寄せていただいた。

本紙は、全国の動植物園、科学館、環境に関する施設などに順次配布を予定している。



ご希望の方や、映像貸し出しの詳細については、下記までお問い合わせを。

NPO法人地球映像ネットワーク
〒162-0803
東京都新宿区赤城下町11-1
TEL 03-5261-9907
FAX 03-5261-9760
E-mail nfn2@naturechannel.jp

(独)メディア教育開発センター
事業推進部企画調査課
TEL043-298-3083~4

コンクール情報

■(財)理想教育財団「第4回育て！プリントコミュニケーション」コンクール作品募集

(財)理想教育財団では、「学校におけるよりよいコミュニケーション環境の醸成をめざし、各種通信の編集・制作の質を高めること」を目的に本コンクールを開催する。詳細は下記の通り。〈募集作品について〉

教職員が「通信」を目的として編集・制作したもので、定期的継続して発行されたもの。学級通信、学年だより、学校だより、教科通信、給食だより、保健だより、図書室だよりなど。〈対象〉

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教職員。

〈条件〉

①平成19年4月以降に制作・発行された作品で、新聞・雑誌・コンクール等で未発表の作品に限る。②他の作者の著作権に触れない作品であること。③児童・生徒、保護者、地域社会に実際に配布した作品。④学校現場の機器を使用して複数枚数制作した作品であること等。

〈募集期間〉

平成20年1月7日(月)～3月31日(月)当日消印有効。

〈審査基準〉

「継続性」「ニュース性」「双方向性」「読みやすさ」「編集デザイン力」「独創性」「期待される教育効果」など総合評価。

〈賞〉

最優秀賞(理想教育財団賞)トロフィーと副賞(図書カード10万円分)1点、優秀賞トロフィーと副賞(図書カード5万円分)数点他、審査員特別賞、審査員

奨励賞、優良賞、新人賞、佳作〈発表〉

平成20年6月上旬ホームページ上等にて。

〈問い合わせ・作品送付先〉

(財)理想教育財団内「育て！プリントコミュニケーション」コンクール作品募集係
〒105-0004東京都港区新橋2-20-15 新橋駅前ビル1号館
TEL 03-3575-4313

短 信

文部科学省は、平成20年1月3日(木)に下記へ移転する。新庁舎での業務開始は1月4日(金)から。〒100-8959東京都千代田区霞ヶ関3-2-2

TEL03-5253-4111(代表)

訃 報

元日本学校視聴覚教育連盟会長の柳下貞一氏が、平成19年12月11日ご逝去された。享年91歳。